

平成30年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

葉山町教育委員会

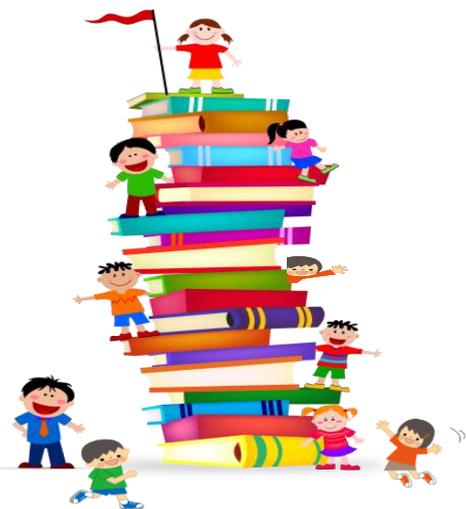
目次

1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項
- (5) 調査結果の見方

2 小学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - (ア) 全体の傾向
 - (イ) 国語
 - (ウ) 算数
 - (エ) 理科
- (2) 児童質問紙に関する調査の結果
 - (ア) 教科に関わる内容について
 - (イ) 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - (ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について



3 中学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
 - (ア) 全体の傾向
 - (イ) 国語
 - (ウ) 数学
 - (エ) 理科
- (2) 生徒質問紙に関する調査の結果
 - (ア) 教科に関わる内容について
 - (イ) 学びに向かう力に関わる内容について
（向上心・主体性・規範意識等）
 - (ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

1 調査の概要

平成30年4月17日に実施した「平成30年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(出典：平成30年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領(文部科学省))

(2) 調査の方式 悉皆調査

- 【参考】 *平成19年度～平成21年度：悉皆調査
*平成22年度～平成24年度：抽出調査(※平成23年度は震災で中止)
*平成25年度～平成30年度：悉皆調査

(3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※4月17日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	284	72,895	1,030,031
中学校	262	64,452	967,196

○集計学校数

※4月17日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	863	19,386
中学校	2	420	9,597

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

(4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。
- ・実施教科が国語、算数・数学、理科の3教科であり、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部分であること。
 - ・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(5) 調査結果の見方

* 全国の平均正答率(公立)の±5%の範囲内であれば同程度と考える。

(出典：平成30年度全国学力・学習状況調査 報告書 平成30年8月 文部科学省)

(用語説明) ※ 平均正答率・・・平均正答数を百分率で表示。

○国語A、国語B、算数A・数学A、算数B・数学B・理科ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。

○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答した児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率。

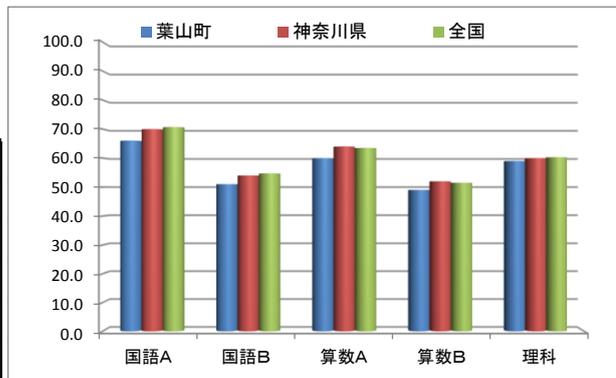
2 小学校に関する調査結果の概要

(1)【教科に関する調査の結果】

(ア) 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語A	66.0	70.0	70.7
国語B	51.0	54.0	54.7
算数A	60.0	64.0	63.5
算数B	49.0	52.0	51.5
理科	59.0	60.0	60.3



※A：主として「知識」に関する問題、B：主として活用に関する問題

- ・ 国語A・B、算数A・B及び理科の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。
- ・ 国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については、多くの設問で全国・県とほぼ同程度の正答率であるが、「読むこと」については全国・県に比べて正答率が下回っている。
- ・ 算数の「数と計算」「量と測定」「図形」の領域については、多くの設問で全国・県とほぼ同程度の正答率であるが、「数量や図形についての技能」の観点については、全国・県に比べて正答率が下回っている。
- ・ 理科は、どの領域、観点とも全国・県とほぼ同程度の正答率である。

(イ) 国語

結果の概要	<p>国語Aについては、「話すこと・聞くこと」の正答率が約90%と高くなっている。一方、「読むこと」については、県に比べて正答率が下回っている。また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の中の「文の中で漢字を使う」問題の正答率は、全てが全国や県の平均正答率を下回っている。</p> <p>国語Bについては、「読むこと」の正答率が全国・県の平均正答率を下回っている。</p>
話すこと	<p>・ 国語Aの「目的地への行き方の説明として適切なものを選択する」問題では約90%、また国語Bの「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える」問題では約80%と高い正答率である。</p>
聞くこと	<p>・ 国語Bの「話し合いにおける司会者の役割について捉える」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回っており、司会の発言に十分着目することに課題があると考えられる。</p>
書くこと	<p>・ 国語Aの「自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える」問題では70.8%の正答率で、全国・県とほぼ同程度となっている。</p> <p>・ 国語Bの「書くこと」に関する問題では、いずれも全国・県との比較では同程度であるが、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」問題では正答率が33.0%、「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」問題では12.3%と低く、目的や意図に応じて考えをまとめ、詳しく書くことに課題があると考えられる。</p>
読むこと	<p>・ 国語Aの「目的に応じて必要な情報を捉える」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。</p> <p>・ 国語Bの「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回るとともに、無解答率が全国・県の平均を上回っており、課題があると考えられる。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>・ 国語Aの「日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う」問題は正答率が89.1%と高くなっている。</p> <p>・ 国語Aの「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」問題の正答率は、すべて全国・県の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。</p>

今後の取組の重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組みが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合いにおける司会者の役割として、発言の共通点や相違点を確認したり、話し合った内容をまとめたりしながら、目的に応じて適切に話し合いを進行することができるように指導する。 ・ 「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く」ことについては、読み取ったり聞き取ったりした情報を比較・分類・整理したり統合したりしながら、構成や順序のつくり方、表現するための言葉を具体的に指導する。 ・ 「目的に応じて必要な情報を捉える」また「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」指導においては、文章中の中心となる語句や文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容等に着目しながら、自分の知識や経験、考えなどと関係づけながら読むように指導する。 ・ 当該学年までに配当されている漢字を適切に使うことができるように指導することが重要である。そのため、繰り返し書いて練習することのみならず、様々な場面で漢字の持つ意味を考えながら、実際に文章の中で正しく使うことができるように指導する。
----------	---

(ウ) 算数

結果の概要	算数A・Bともに全ての領域において、全国・県とほぼ同程度の正答率であるが、全ての設問について、無解答率が全国・県を上回っている点に課題があると考えられる。
数と計算	<ul style="list-style-type: none">算数Aの「1に当たる大きさを求める数量の関係を数直線上に表す」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回っており、問題場面を的確に捉え、数量関係を図や数直線等に表すことに課題があると考えられる。算数Bの「規則性を解釈し、それを基に条件に合うものを判断する」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回っており、規則性を見出し、条件に合う事柄について適切に判断することに課題があると考えられる。
量と測定	<ul style="list-style-type: none">算数Aの「混み具合を比べる」問題は、90%近い正答率で、理解が定着していると考えられる。算数Bの「量と測定」の領域に関する問題では、どの設問においても全国・県と同程度の正答率である。ただし、4問中3問は50%以下の正答率で、課題があると考えられる。
図形	<ul style="list-style-type: none">算数Aの「図形」の領域の正答率は、いずれも全国・県との比較においては同程度と言えるが、無解答率が全国・県の平均を上回っており、課題があると考えられる。算数Bの「合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す」問題の正答率は、全国・県に比べて低くなっている。また、「1つの点の周りに集まった角の大きさの和が360度になっていることを記述する」問題の無解答率が21.8%となっており、いずれも課題があると考えられる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none">算数Aの「折れ線グラフから変化の特徴を読み取る」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回っている。「百分率を求める問題」も同様で、基準量と比較量を正しく捉えることに課題があると考えられる。算数Bの「メモの情報とグラフを関連づけ、総数や変化に着目していることを解釈し、記述する」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回るとともに、無解答率も全国・県の平均を上回っており、言葉や数を用いて記述することに課題があると考えられる。

今後の取組 の重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組みが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">日常生活の問題の解決において、乗法や除法を適切に用いることができるようにするため、具体的な場面と関連づけながら式の意味を解釈したり、その式を用いて問題を解決したりする場面を設ける。問題を解決する際、単位量あたりの大きさを活用することで合理的に判断したり、能率的に処理したりすることの良さを実感できるような場面設定や、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて考えたり説明したりするような学習を日常的に行う。図形の学習で展開される作図や構成に関しては、構成する要素に着目し、図形のどのような約束や性質を用いているかを確認し、図形についての理解を深めるよう指導する。問題を解決する際、児童が既習内容を活用し、場面や数値などの条件を変えて発展的に考えられる学習活動を日常的・継続的に設ける。示された情報から基準量と比較量を特定するために、問題の状況を丁寧に読み解き、その関係を図や数直線などに表して捉えるように指導する。
--------------	--

(工) 理科

結果の概要	どの領域においても、全国・県とほぼ同程度の正答率である。
物質	<ul style="list-style-type: none"> 「海水と水道水を区別するために、2つの異なる実験方法から得られた結果を基に判断する問題」の正答率は約90%で、全国・県と同程度である。 「食塩を水に溶かした時の全体の重さを求める」問題及び「食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験から導き出す結論を求める」問題ではいずれも正答率は50%以下となっており、水溶液の理解について課題があると考えられる。
エネルギー	「電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想する」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回っており、課題があると考えられる。
生命	「骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解する」問題の正答率は約70%で県と同程度であるが、全国との比較では9%程度低くなっている。
地球	<ul style="list-style-type: none"> 「上流側と下流側の様子の比較から、天気と水位の関係を考える」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を上回っている。 「流れる水のはたらきに関して、実験結果を基に分析・考察し、その内容を記述する」問題の正答率は約16%で、全国・県の平均正答率と比べても4～5%低くなっており、課題があると考えられる。

今後の取組みの重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組みが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水溶液の性質について、水に溶ける量と重さを計る、溶けている物を取り出す等の実験を行う際には、予想を立て、見通しを持って実験し、結果について日常生活の場面と結びつけて実感を持たせるよう指導する。 自然や日常生活で見られる事物・現象から見いだした問題を解決するために、どのような実験を構想すれば適切なデータが得られるか考えさせ、また得られた結果を基に分析して考察し、その内容を記述する学習活動を意図的に設ける。 人間や身近な動植物の各部位に関する科学的な名称や役割・働きの概念等については、日常生活の様々な機会を通して、実感を伴って理解できるような指導を、継続的に積み重ねる。
-----------	---

(2)【児童質問紙に関する調査の結果】

＜抽出項目について＞

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科」、「学びに向かう力」、「家庭学習・生活習慣」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。また、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

(ア) 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	算数の勉強は好きですか	62.1	64.3	64.0
②	算数の授業の内容はよくわかりますか	85.3	82.8	83.4
③	算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	78.9	77.0	78.4
④	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	63.5	66.5	64.4
⑤	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	78.6	77.9	78.5
⑥	理科の勉強は好きですか	87.4	82.2	83.5
⑦	理科の授業の内容はよくわかりますか	90.9	89.0	89.4
⑧	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	67.0	63.3	64.7
⑨	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか(週1回以上の割合)	61.4	34.4	41.2
⑩	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことがわかったのか考えていますか	81.7	81.4	81.8

課題及び改善点	多くの児童が意欲と向上心を持って学習に取り組んでいることが推測される。特に、多くの設問において県や全国の正答率を上回っている理科については、実験・観察の頻度が高いことから「好き」で「よくわかる」という回答が多くなっている。引き続き、学ぶことに対する興味や関心を持たせるような授業づくりに向けて改善していく必要がある。教科学習で学んだことを「普段の生活の中で活用できないか考える」習慣を育てていきたい。
---------	--

(イ) 学びに向かう力に関わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	88.8	83.4	84.0
②	将来の夢や目標を持っていますか	81.8	83.7	85.1
③	学校のきまりを守っていますか	84.5	87.6	89.5
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれ位の時間、読書を読みますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	43.5	41.5	41.1
⑤	地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか	61.4	63.2	63.8
⑥	新聞を読んでいますか ※「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した割合の合計	29.1	18.5	19.9
⑦	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	80.3	75.9	76.7
⑧	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか	63.9	61.8	61.0
⑨	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	78.5	76.6	77.7
⑩	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	66.0	76.2	80.0
⑪	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	69.8	76.5	80.3
⑫	調査問題の解答時間は十分でしたか（理科） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と解答した割合の合計	86.3	90.2	90.1

課題及び改善点	<p>自己肯定感の高さ、新聞を読む習慣、授業に対する主体的な姿勢等が、県や全国との比較において良好であり、それらが学びに向かう力になっていると推測される。今後も、より充実した主体的な学習活動となるよう工夫し、児童の思考力や表現力の育成を目指した授業を実践していく必要がある。</p> <p>一方、「調査問題の解答時間が十分だったか」という質問への回答が、いずれも県や全国に比べて低く、不十分と答えた児童が多い。このことが各教科の無解答率の高さと関連しているかどうか検証するとともに、限られた時間の中で必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめて表現する力を育むことが大切である。</p>
---------	--

(ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	66.0	64.3	67.6
②	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	48.8	55.2	62.6
③	家で、学校の宿題をしていますか	96.2	96.8	97.1
④	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	59.3	62.9	69.9
⑤	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強を読みますか ※「1時間以上」と回答した割合	56.2	61.5	66.2
⑥	朝食を毎日食べていますか	95.4	94.4	94.5
⑦	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	76.5	76.2	77.0
⑧	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.4	87.9	88.8

課題及び改善点	<p>朝食の喫食率など、基本的な生活習慣については良い傾向である。一方、学校の授業時間以外に、1日1時間以上学習する児童の割合は県・全国と比較して低い。家で学校の予習・復習に取り組む割合も例年と同様に低くなっている。学習習慣が確立していない児童について、今後も家庭と学校が連携を図り、家庭学習の定着と内容の向上に取り組む必要がある。</p>
---------	--

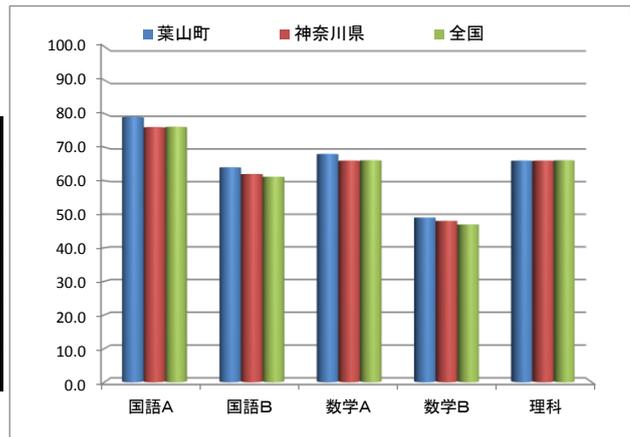
3 中学校に関する調査結果の概要

(1)【教科に関する調査の結果】

(ア) 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語A	79.0	76.0	76.1
国語B	64.0	62.0	61.2
数学A	68.0	66.0	66.1
数学B	49.0	48.0	46.9
理科	66.0	66.0	66.1



※A：主として「知識」に関する問題、B：主として活用に関する問題

- ・ 国語A・B、数学A・B、及び理科の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。
- ・ 国語はA・Bともに多くの設問で、全国・県とほぼ同程度の正答率である。
- ・ 数学はA・Bともに多くの設問で、全国・県とほぼ同程度の正答率である。
- ・ 理科は多くの設問で、全国・県とほぼ同程度の正答率である。「自然事象への関心・意欲・態度」という評価の観点では、全国・県に比べて平均正答率が下回っている。

(イ) 国語

結果の概要	どの領域においても、全国・県とほぼ同程度の正答率である。基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね図られている。
話すこと	・ 国語Aの「話し合いの話題や方向を捉えて的確に話す」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を上回っている。「話の論理的な構成や展開などに注意して聞く」問題の正答率も、県の平均正答率を上回っている。
聞くこと	・ 国語Bの「質問の意図を捉える」問題及び「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する内容を書く」問題の正答率が約90%と高くなっている。
書くこと	・ 国語Aの「書こうとする事柄のまとめや順序を考えて文章を構成する」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を上回っている。 ・ 国語Bの「目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く」問題及び「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問題の正答率は、全国・県の平均正答率と同程度であるが、15%と特に低く、文章の構成や展開に着目しながら、目的に応じて文章を読み、内容を適切に捉えてまとめることに課題があると考えられる。
読むこと	・ 国語Aについては、いずれの問題の正答率も、全国・県の平均正答率と同程度である。 ・ 国語Bの「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える」問題及び「文章の構成や展開について自分の考えを表現する」問題は全国・県の平均正答率を上回っている。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・ 「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」問題の平均正答率は、全国・県を上回っているが、「『せき』を切ったように話し始めた」のように、語句によって正答率の低いものがある。

今後の取り組みの重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組みが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語感を磨き、語彙を豊かにするために、学習した語句を話や文章の中で実際に使用するよう指導するとともに、日常生活や社会生活の中でも使うように促す。 ・ 話し合いなどでは、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話すことや、全体と部分との関係に注意しつつ、相手の反応を踏まえながら、自分の考えを分かりやすく伝えるように話すことに留意する。また、互いに意見を述べ合う中で、各自の考えを広げたり深めたりできるような場面を設定していく。 ・ 目的に合った必要な情報に着目しつつ内容を捉えて読むこと、また読んで理解したことを基に自分の考えを明確にすることなどの学習では、読んだ後にまとめたり、報告したりする場面や伝え合う場面を設定していく。 ・ 自分の考えが伝わるように書くためには書く内容を整理することが必要である。自分の考えの根拠を明確にし、具体的に自分の考えを説明できるように指導する。
------------	--

(ウ) 数学

結果の概要	数学A・Bともに、全国・県の平均正答率と同程度であった。基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね図られていると言えるが、それを活用して思考する力に課題があると考えられる。
数と式	・数学Aの「文字式に数を代入して式の値を求める」問題及び「数量に着目し、連立二元一次方程式を作る」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を上回っている。 ・数学Aの「絶対値を求める」問題及び「指数を含む正の数、負の数の計算」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を下回っている。
図形	・数学Aの「角の二等分線を選ぶ」問題及び「半円の直径を軸として回転させてできる立体の名称を解答する」問題の正答率は、全国や県の平均正答率を上回っている。 ・数学Bの「条件を変えた場合に、発展的に考え、証明の一部を書き直す」問題及び「付加された条件の下で、新たな事柄を見出し、改めて説明する」問題については正答率が低く、見出した事柄を適切に説明することに課題があると考えられる。
関数	・数学Aの「座標平面上に点の位置を示す」問題の正答率は、国や県の平均正答率を上回っている。「一次関数 $y = ax + b$ について、 x の値の増加に伴う y の増加量を求める」問題では正答率が50%以下と低く、一次関数の理解に課題があると考えられる。 ・数学Bの「事象を単純化・理想化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈する」問題の正答率は、国や県の平均正答率を下回っている。「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題は、約10%と正答率が低い。
資料の活用	・数学Aの「最頻値を求める」問題及び「中央値を求める」問題の正答率は、全国や県の平均正答率を上回っている。 ・数学Bの「確率を用いて不確実な事象を説明する」問題は、正答率が低く、数学的な表現を用いて適切に説明することに課題があると考えられる。

今後の取組みの重点	○課題の改善に向けて、次のような取組みが考えられる。 ・正の数・負の数の意味理解や文字を用いた式の四則計算では、数が視覚的に実感できるように数直線を活用する等の工夫を行い、また事象を数学的に考察できるように数量の関係を文字を用いて式に表したり、式を事象に即して読み取ったりする活動を取り入れる。 ・基礎的・基本的な知識・理解はほぼ身につけていると言えるが、それを活用して思考し証明する力には課題がある。数学的活動を通して、図形の性質を活用して論理的に思考する体験を重ねさせ、理解を促進する。 ・関数の意味を理解することができるようにするため、数学的な事象の考察を通して変化や対応の特徴を見だし、その上で表・式・グラフを相互に関連づけて考察する活動を取り入れる。 ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにするため、資料の分布の様子を捉え説明する活動を積極的に取り入れる。
-----------	---

(工) 理科

結果の概要	理科の正答率は、全国・県の平均正答率と同程度の結果であった。基礎的・基本的な知識・技能の定着は概ね図られている。	
第1分野	物理的領域	<ul style="list-style-type: none"> 光の反射についての問題の正答率は、全国・県の平均正答率と同程度である。 電気についての問題の正答率は全国・県と同程度であるが、「オームの法則を使って抵抗の値を求める」問題の正答率が51.5%と低く、抵抗値の理解に課題があると考えられる。
	化学的領域	<ul style="list-style-type: none"> 「ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘する」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を上回っている。 「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを選択する」問題の正答率が31.8%と低く、水溶液の濃度の理解及びそれを表す技能に課題がある。また、「化学変化を原子や分子のモデルで表す」問題は、全国・県の平均正答率を下回っている。化学変化の前後で原子の種類や数は変化しないという知識の活用に課題があると考えられる。
第2分野	生物的領域	<ul style="list-style-type: none"> 「条件制御の知識・技能を活用して、要因が複数ある実験を検討して改善する」問題の正答率は、全国・県の平均正答率を上回っている。 「人間の神経系の働き」についての問題の正答率は、全国の平均正答率を下回っており、神経の名称の理解に課題があると考えられる。
	地学的領域	<ul style="list-style-type: none"> 「台風に関する」問題の正答率は、いずれも全国・県と同程度である。 「地震の揺れの強さやS波の揺れの名称を選択する」問題の正答率は、全国の平均正答率を下回っており、基本的な知識を身に付けていないと考えられる。

今後の取組みの重点	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組みが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> どの領域においても「科学的な思考・表現」にばらつきが見られることから、与えられた課題に対して生徒自らが考える場面を大切にするなど、科学的思考力を育む学習方法を工夫・改善する。 オームの法則を使って抵抗の値を求めることや水溶液の濃度に関わる理解に課題が見られることから、理科の授業において実際に数値計算をして確かめる場面を意図的に多く設定する。
-----------	---

(2)【生徒質問紙に関する調査の結果】

＜抽出項目について＞

「葉山町学びづくり研究推進事業」で取り組んでいる内容に深く関連している項目(「教科」、「学力向上」、「家庭学習」)に関わる設問を生徒質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭との連携について、さらなる充実を図ることをねらいとしています。また、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

(ア) 教科に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出	中学校		
	葉山町	神奈川県	全国
① 数学の勉強は好きですか	53.8	56.9	53.9
② 数学の授業の内容はよく分かりますか	70.1	75.3	71.0
③ 数学の問題の解き方がよく分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	67.8	70.0	70.3
④ 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	34.8	39.6	38.7
⑤ 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	67.8	68.8	69.2
⑥ 理科の勉強は好きですか	48.5	61.3	62.9
⑦ 理科の授業の内容はよく分かりますか	62.1	70.0	70.0
⑧ 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	42.5	44.1	45.4
⑨ 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか ※数値は、「週1回以上」と回答した割合(百分率)	50.0	29.6	40.7
⑩ 理科の授業で、観察や実験の結果を基に考察していますか	57.9	73.6	72.3

課題及び改善点	<p>両教科ともに「内容がよく分かる」という生徒の割合は、全国・県の平均に比べて低くなっている。また、「理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか」の回答以外は、すべて全国・県の平均を下回っている。各教科の平均正答率が全国・県の平均正答率と同等であることを考えると、学びの定着が実感できていない様子が窺われる。このことを解決するためにも、学びの活用に関する場面の工夫や思考を深める場面を効果的に設定する授業づくりをさらに推進していく必要がある。</p>
---------	--

(イ) 学びに向かう力に関わる内容について（向上心・主体性・規範意識等）

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、良いところがあると思いますか	75.0	77.5	78.8
②	将来の夢や目標を持っていますか	71.5	70.4	72.4
③	学校の規則を守っていますか	94.4	93.6	95.1
④	学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、読書をしめますか ※教科書や参考書、漫画や雑誌は除く 「30分以上」と回答した割合	32.6	27.9	30.9
⑤	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	60.3	56.4	59.3
⑥	新聞を読んでいますか ※「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した割合の合計 (百分率)	20.8	11.6	13.9
⑦	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	71.6	71.3	73.8
⑧	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	59.1	55.5	53.8
⑨	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	73.8	73.2	76.3
⑩	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	93.6	93.8	92.1
⑪	調査問題の解答時間は十分でしたか（数学A） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	91.6	92.8	91.5
⑫	調査問題の解答時間は十分でしたか（理科） ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	94.7	93.6	92.3

課題及び改善点	多くの設問において、全国や県の割合を上回っており、話し合い活動を取り入れた課題解決学習型の授業が増えてきていることが窺われる。生徒が話し合い活動に積極的に参加し、授業における発表の場が定着してきた中で、その活動が確かな学力の向上につながっているのか、形式だけにとどまっていないかを丁寧に検証することが必要である。授業の中での、めあてやねらいの提示については、ここ数年で定着してきている。今後はさらに、生徒に付けさせたい力を意識しながら授業づくりに取り組むことが必要である。
---------	--

(ウ) 家庭学習・生活習慣に関わる内容について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	44.3	48.4	52.1
②	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	48.5	52.1	55.2
③	家で、学校の宿題をしていますか	90.5	88.6	91.6
④	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	70.1	69.4	71.3
⑤	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしめますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） ※「1時間以上」と回答した割合	73.5	73.6	70.6
⑥	朝食を毎日食べていますか	93.1	90.0	91.9
⑦	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	68.6	70.2	74.2
⑧	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.6	86.7	90.3

課題及び改善点	家庭での学習と学校での学習との結びつきについて、全国よりやや下回っている項目がある。学校外での学習時間量についての回答が全国の平均を上回っていることを踏まえ、今後も家庭と学校が連携を図り、家庭学習の定着と内容の向上に取り組むことが必要である。
---------	---